

沙羅の樹文庫だ・より



藤代清治の影絵

お月見(勝手にさ・らが命名)

この寝る 夜のまに秋は 来にけらし
朝気の風に 昨日にも似ぬ 藤原季通

このころの秋の朝明に 霧隠り
妻呼ぶ鹿の声のさやけき 読み人不明

古本屋 小3 本橋日菜

古本屋に入ると
天じょうにとどくほど
本がならんでいた
古本屋に入ると
ふしぎなおいがした
本を買った
ふしぎなおいもついてきた
読売新聞「子どもの詩」から

古書を古読せず、雑書を雑読せず(金原明善)

文庫あれこれ◆昔、50年以上も前、人文地理の名物教師が、もうすぐ、ドカンと一発、爆弾を空に打ち上げれば、台風なんて、人のいないところに飛んでいく時代になるよ、と書いていたような気がするのですが。発達したのは、人類に悪害を及ぼす核ミサイルだけ?◆台風も地震も自然とともに暮らす私たちに為すべなし?◆聞空にしても北海道地震の現場にしても報道画面を見ると他人事とは思えません。◆備えと言われても…。◆ともあれ、暦では二百十日(18.9.1)が過ぎれば、次は中秋の名月・お月見ですが、今年は秋分の日(23日)の翌日が旧暦8月15日に当たるようです。お彼岸です。この世の平穩を願い、ご先祖様にお萩ならぬ月見団子をあげて筆遣をしましょうか。◆沙羅の樹の文庫だよりは、2006年のこの9月が第1号でした。2か月経って、図書の数が2500〜3000に。会員が60名を超えたことあります。今では1500冊をはるかに超え、登録会員数は590人を超え(休会者が多く、来続けているのは200人くらい?)ています。◆宵間に虫たちのにぎやかな音楽会が、ともありますが、今では、夜来の雨音にも気づかなかった私の耳に聞こえてくるでしょうか。◆先月私の不確かな戦後の記憶にふれましたが、立証されました!東京大空襲の時、深川の木場で罹災されたMさんが上野駅のことや歌舞伎座の見聞を同時期に体験されて。(私より4.5歳上だから確か!です)◆8月下旬、6年の孫が、じじばばに戦争体験を取材にきました。主人は原爆投下数日後、広島で母に背負われて祖父を探しまわったこと、私は前橋空襲で祖母に負ぶさり、田んぼのあぜ道から必需品の入った乳母車ごと小川へ転落し、そのまま濡れた布団をかぶってB29をやり過ごしたことを話しました。それらは、母、祖母から聞いたこと。でも、まるで実体験したかのように心に残っています。◆そんなこんなでまだ戦争のことが私の中にあり、『ナガサキの郵便配達』『星は見ていた』など、入れました。◆一昨年、長年文庫を運営していらっしゃる大先輩がご主人(徳永徹さん)著『少年たちの戦争』(岩波書店)を送ってください、文庫に入れました。ご主人の訃報が先日新聞に。長崎生まれで福岡の学校に行っていて原爆は免れたけど、自分たちは確かに軍国少年だったと。何故そうだったのか。8月は過ぎたけれど、考えていかねばならない課題です。◆「子どもの本九条の会」で、小澤俊夫(独文学者、征爾さん兄)が「空気を読む」(付和雲同に繋がる)はだめ、自分の声をあげよう、と。◆**ふつうの私たちが身近なことに目をつぶらずに、ですね。**(西村 折ること 多き八月 海光苑(山田山人句・読売歌壇9/11))

沙羅の樹文庫開館スケジュール
2018
★開館日は通常は
第3日曜と前日の土曜です★

◆9月は通常 15日(土)〜16日(日) 両日
◆10月は通常 20日(土)〜21日(日) 両日
◆11月は変則 4週 24日(土)〜25日(日) 両日
◆12月は通常 15日(土)〜16日(日) 両日
16日 AM クリスマスおたのしみ会あります。

2019
◆1月は通常 19日(土)〜20日(日) 両日
◆2月は通常 16日(土)〜17日(日) 両日
◆3月は通常 16日(土)〜17日(日) 両日

通常の文庫の時間
土曜は 14:00〜17:00 日曜は 10:00〜15:00

☆毎月開館日の日曜には、10:30〜11:30
子どものための小さなおはなし会があります。

★毎月開館土曜日 11:00〜13:00
☆☆おはなし沙羅の勉強会☆☆

よみきかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ!
よみきかせ、かたりの参考資料多数在庫



濡れ縁に映える8月の文庫の花(真鍋さん感謝!)

2018年8月に読んだ本についての感想 2018年9月12日 By 森林浴

『読書という荒野』(見城 徹著 幻冬舎2018)

著者の見城さんは、創立した幻冬舎がいまや素晴らしい大成功で 作る本が次々とベストセラーになっています。9月12日の朝日新聞の3ページにも幻冬舎の大きな広告がありますが、いまや出版界の雄として大成功を収めたと言えるでしょう。その創業者としての信念と想像を絶する努力、強烈な信念、を惜しみなく披露した本です。その基本はこれという著者を見定めて、各著者に食らいつけて次々と売れる本を出版して行くことで、まさに驚異の出版人であると言えるでしょう。この本の発する熱気は凄いです。

私はもうかなり前に彼の書いた本を読んでびっくりしたことを覚えています。伊東の川奈ホテルに若かった村上龍と泊まり込み、毎日テニスと美食に明け暮れたという記録でした。

五木寛之、石原慎太郎、中上健次、林真理子などが登場します。

『あの夏、兵士だった私—96歳、戦争体験者からの警鐘』(金子兜太著 清流出版2016)

俳句が好きなので、金子兜太さんが朝日新聞の週1回の俳句で選者を務められていた間、いつも楽しく拝見していました。99歳で亡くなられたというのですが、つい最近まで俳句で活躍され、さらに戦争体験から最近の安倍政権の動向に強い危機感を示されていたのを知って驚きました。

この本で戦争中はトラック島の重要基地で、海軍主計中尉として活躍されたということ、トラッ

ク島は地上の戦争はなく、米軍の航空機による空襲と戦うのが主な闘いだだった、兵士だけでなく意外に民間の労働者も多く、敗戦後は米軍の占領下で比較的良好な生活をする事ができた、などのことを知りました。

比島とかビルマの惨憺たる敗北で死に直面した戦場に比較すれば、まあ苦労は少なく済んだという感じがします。

日本銀行に職を得ながら、最後までついにそこには満足できなかったようです。

★9月13日付けのA新聞によると、兜太さんの名前を冠した雑誌ができるそうです(蔵原書店より)。

『子どもと読書』(親地連)の特集 <マイケル・モーパーゴ>に添えて

文庫だより 8月号(文庫あれこれ)でお話したように、沙羅の樹の中2の3人(田中陽葵君、稲岡郁音さん、本岡あかりさん)が、依頼を受けて、上記特集に感想を書きました。この冊子は受付においておきます(モーパーゴの在庫作品一覧も)ので、ぜひ、お読みください。

特集に執筆した方、翻訳者からのメッセージ、そして特集担当者が子どもたちへのお褒めの感想を寄せてくださったので、嬉しくてここに載せました。これは彼らがこれまで、たくさん本を読んできた力の賜物です。(さ・ら)

中学生のみなさんの文章を拝見して、内容把握の確かさと表現のゆたかさに感嘆しました。親地連の長年のご活動がこんなふうになるに次の世代に実を結んでいるのだと、目をみはる思いです。

(特集の総論執筆者の佐々木赫子さん)

中学生の感想文が嬉しいですね。
(モーパーゴ翻訳者・佐藤見果夢さん)

こんにちは。
子どもたちの文章がとても心に残っています。
田中さんの中にあった『よみがえれ白いライオン』をまだ読んでいなかったのを読みました。
「・・・これまで自分は戦争を避けてきました」と、ありました。高齢者の私自身も避けてしまいます。「戦争に向き合っていくかと思えます。」という文に、未来を託せる若者の生きる力を感じました。
福岡さんは『図書館にいたユニコーン』を読んで、「・・・私も大人になったら、素敵な物語や本を次の世代に伝え・・・その仕事を一番身近にできる図書館司書に憧れたのだ。」と。本を手渡す側になりたいという、どうぞその気持ちをずっと持ち続けてほしいと願いました。
本岡さんは『発電所のねむるまち』を遠い国の話としてとらえるのではなく、自分のこと、福島原発にも触れ、丁寧に気持ちを書いていました。やはり文末の「・・・つらい過去でも、向き合って、明るい未来を、そこから築き上げていく・・・」に希望に向かって進もうとする力強さを感じました。
私もモーパーゴの作品が好きです。子どもは弱者ではないのです。子どもたちは毎日ひたむきに生きています。モーパーゴはそんな子どもたちの日々を丹念に追います。私は『希望の海へ』が好きです。この本も読んでほしいです。
子どもたちに「ありがとう」とお伝えくださいませ。
(特集担当の1人・篠崎ミツ子さん)

そして、読書がどんな時も彼らの生きる糧になりますよう!

沙羅の樹文庫のHPもどうぞご覧ください!!
<http://saranokibunko.com>

18年9月に入った子どもの本

絵本

『行ったり来たり大通り』(五味太郎作 絵本館 2018) ID12830
 『わたしの森に』アーサー・ピナード文 田島征三 絵 くもん出版 2018) ID12823
 『シカの童女』(岡野薫子さく 赤羽末吉え 復刊 ドットコム 2018) ID12824
 『ちいさなエリオット おおきなまちで』(マイク・クラウトウ作 福本友美子訳 マイクロマガジン社 2018) ID12825
 『ほくにまかせて!』(デイヴィッド・ウィズナー作 BL 出版 2018) ID12831★文字のない絵本

紙芝居

『チボリーノのぼうげん(前編)』『チボリーノのぼうげん(後編)』(ジャンニ・ロダリー原作 木村次郎 脚本 岡本武紫絵 童心社) ID12826、12827

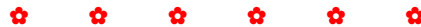
読み物

『こぶたのピクルス』(小風さち文 福音館書店 2015) ID12828
 『わたしといろいろなねこ』(おくはらゆめ作 あかね書房 2018) ID12829
 『方言でたのしむイソップ物語』(安野光雅絵・文 平凡社 2018) ID12814
 『ドエクル探検隊』(草山万兎作 松本大洋画 福音館書店 2018) ID12832
 『源氏物語 宇治の結び 上』『源氏物語 宇治の結び 下』(紫式部作 荻原規子訳 理論社 2017) ID12811、2
 『橋の下のこどもたち』(ナタリー=サバッジ=カー ールソン作 なかがわちひろ訳 フェリシモ出版)

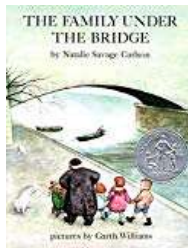
ID12813※復刊
 『赤毛のアン』(モンゴメリ作 岸田裕子訳 安野光雅絵 朝日出版社 2018) ID12815
 『ナチスに挑戦した少年たち』(フィリップ・フーズ作 金原瑞人訳 小学館 2018) ID12816

参考文献

『絵本に魅せられて』(佐藤英和著 こくま社 2016) ID12819
 『かんがえる子ども』(安野光雅著 福音館書店 2018) ID12820
 『お話とともに育つ喜び-おはなし通信』(下澤いづみ著 風媒社 2018) ID12821
 『伝説の編集者ノードストロムの手紙-アメリカ児童書の舞台裏』(レナード・S・マーカス編 児島なおみ訳 偕成社 2010) ID12822



低学年向けの楽しいよみものが3冊はいりました。読んでみてね。



『ねこのパンやさん』を読んで

八幡野小学校2年 鈴木りんたろう
 ぼくは、ネコがだいすきでネズミもすきで、この本は、ネコとネズミがかつやくして、りょうほうでいるから、一ばんすきな本です。

ネコのパンやさんの中で、一ばんすきなところは、ネコとネズミが、いじわるなごしゅじんとおくさんをビックリさせて、パンやからおいはらうところです。

パンやのいじわるなごしゅじんに一日じゅうこきつかわれて、へとへのネコ。かわいそうなネコをたすけるために、ネズミたちは、ちかくのみせにいっていろいろなものをかりてきて、パンやのおくさんがきらいなへびや虫を作ってビックリしたごしゅじんとおくさんをおいしました。そして、こんどは、ネコとネズミがパンやをはじめたのです。

ぼくもいっしょに、いじわるなしゅじんをやったかったなと思いました。

『ねこのパンやさん』(ポージー・シモンズ作・絵 松波佐知子訳 徳間書店) ID2711



いつもだまって日曜のおはなし会を聴いていた藤本郎君。小学生になって急に活発になり、そして頼もしくなりました。しっかり自分の気持ちを書いてくれました。ありがとうございます。

まだ、よんでないおともだち! よんでみてね!

18年9月に入ったおとなの本

フィクション

『下町ロケット【3】ゴースト』(池井戸潤著 小学館 2018) ID17593※request
 『未来』(湊かなえ著 双葉社 2018) ID17594
 『一億円のさようなら』(白石一文著 徳間書店 2018) ID17595
 『日傘をさす女』(伊集院静著 文藝春秋 2018) ID17617
 『神様の住所』(九蝶ささら著 朝日出版社 2018) ID17619※ドワゴ賞
 『夏空白花』(須賀しのぶ著 ポプラ社 2018) ID17614※request
 『八幡炎症記』(村田喜代子著 平凡社 2015) ID17599
 『火の環』(八幡炎症記完結編) (村田喜代子著 平凡社 2018) ID17600
 『がいなもん-松浦武四郎一代』(河治和香著 小学館 2018) ID17610
 『セーヌ川の書店主』(ニーナ・ゲオルグ著 集英社 2018) ID17612※request
 『舞踏会へ向かう三人の農夫』(リチャード・ハワーズ著 柴田元幸訳 みすず書房) ID17613
 ※request
 『赤く微笑む春』(ハヤカワ・ポケット・ミステリ) (ヨハン・テオリン著 三角和代訳 早川書房) ID17607
 『夏に凍える舟』(ハヤカワ・ポケット・ミステリ) (ヨハン・テオリン著 三角和代訳 早川書房) ID17608※テオリンのエーランド島4部作がこれで揃いました。(1. 黄昏に眠る秋 2. 冬の灯台が語る時 是在庫)

エッセイほか

『凡人の怪談-不思議がひょんと現れて』(工藤美代子著 中央公論新社 2018) ID17618
 『星は見ている-全滅した広島一中一年生父母の手...記集(平和文庫)』(秋田正之編 日本ブックエース 2010) ID17615
 『ナガサキの郵便配達』(ピーター・タウンゼント原作 スーパーエディション 2018) ID17611
 歴史『逆転の世界史-覇権争奪の5000年』(玉木俊明著 日本経済新聞出版社 2018) ID17596
 『ふわふわ』(谷川俊太郎/工藤直子著 スイッチ・パブリック 2018) ID17604
 『カミーユ』(大森静佳著 書肆俣々房 2018) ID17605
 『真実-梶芽衣子』(梶芽衣子著 文藝春秋 2018) ID17597※寄贈

新書

『信長はなぜ葬られたのか-世界史の中の本能寺の変』(安倍龍太郎著 幻冬舎新書 2018) ID17616
 『ユーモアのレッスン』(外山滋比古著 中公新書) ID17606

文庫

『センセイの鞆』(川上弘美著 新潮文庫) ID17609
 『白洲家の日々-娘婿が見た次郎と正子』(牧山圭男著 新潮文庫) ID17598
 『文読む月日 上』『文読む月日 中』『文読む月日 下』(トルストイ著 北御門二郎訳 ちくま文庫) ID17601、ID17602、ID17603

沙羅の樹文庫だより 146-2

徒然に・・・

★敬老の日と言えば昔は9月15日に決まっていた。まだ子どもだった我が家の子どもたちは、2人のおはあちゃんに、何かプレゼントをしていました。でも、最近では、祝日であっても日にちが毎年違って何の祝日かわからなくなって、いまおはあちゃんになった私には孫たちは何も言いません。昨日の新聞に都知事の敬老訪問が載っていました。世田谷在住の奇しくも私と同姓のかわいい100歳の方でした。でも東京だけでも100歳以上が2755人も存命とか。すご〜い、ご立派!! でも、と考えてしまいました。

★先日、箱根の宿に1泊しました。安くて飲み放題のところ。初夏に伊東のIに泊まって夫さんは気楽さが気に入ったようです。夏休みも終わってほとんど同輩のカップル。でもハイキングの隣席だった若めのご夫婦は愉快でした。たくさんのお皿にいろいろな料理を山盛りもってきては、おいしいね、おいしいね、と言い乍ら本当においしそうに食べ、くぐい飲むんです。夫さんとふたりでその姿を楽しませてもらいました。

★8月に夏休みで大学1年生咲穂ちゃんが、数か月ぶりに文庫へ。北海道生活は楽しそう、高校時代から続けているワングルに入って山登りも。9月にも来られるからと言って帰ったけれど、今度の地震で北大の古い寮は大丈夫だったかしら? 週末、元気な姿に会えますように。

★本の紹介を寄せてくれている旭川の亜子さん、旭川は被害地に入っていなかったけれど、夜中に突然の震度4。驚いてドアの柱にしがみついたそうです。6日は電気も水道もとまり、不安な日。旭川は地震が少ないのでなおさら恐怖。北海道の全部の家庭の電気が切れるという前代未聞の出来事に振り回され、「衣食足りて礼節を知る」を実感したとか。日常生活が成り立たないと何もできないことが身に染みたと、メールで。

★世田谷の我が家、1Fが通りより下。前回浸水して、排水ポンプをさらに1台追加したのに、8月下旬の集中豪雨でまた。施工会社も手なしと。雨の度度にヒヤヒヤ。そこで、夫さん、ついにこんな手を…。うまくいきますように。